

# 熊本商工会議所・第48回 経営動向調査

## 平成20年6月期 結果報告書

### 業況DI マイナス51.8 前期(20年3月期)から悪化

～2期連続の悪化、特に、製造業においては調査開始以来の最低水準～

#### 調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲51.8となり、前回(平成20年3月期)調査の▲39.7と比較して悪化(マイナス12.1ポイント)した。

前回調査から業況が改善したのは、小売業が▲26.9ポイント(プラス6.5ポイント)、卸売業が▲26.9(プラス4.9ポイント)の2業種であった。一方、悪化を示したのは、サービス業が▲51.9(マイナス36.5ポイント)、製造業が▲73.3(マイナス14.7ポイント)、建設業(土木)が▲50.0(マイナス13.6ポイント)、建設業(職別・設備)が▲48.3(マイナス12.6ポイント)、飲食業が▲66.7(マイナス3.1ポイント)の5業種で、特に、製造業においては3期連続の悪化となり、業況DI値も調査開始以来の最低水準で、業況感は一層厳しさを増している。

今回の調査で業況を全体的に見ると、6年振りに業況DI値がマイナス50を超え、業況感に更に厳しさが強まったことが窺える。特徴としては、製造原価・仕入(材料等)単価面において、全ての業種で業況DI値が悪化を示し、特に飲食業においては相次ぐ食料品の値上げにより大幅な悪化となっている。

来期(平成20年7～9月)の業況見通しとして、建設業(土木)、製造業を除く他の業種においては悪化の見通しとなったものの、建設業(土木)においては、プラス30.6ポイントと明るい業況見通しとなった。

調査先からの意見として、原油・原材料高騰等コスト高による採算悪化、受注単価及び受注量の減少、食料品値上げ等物価高による消費意欲の低迷など先行きへの懸念を訴える声が多く見受けられた。

- ・ 調査対象期間 平成20年4月～6月(平成20年度 第1四半期)
- ・ 調査期間 平成20年6月23日(月)～6月27日(金)
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 226事業所(回答率78.5%)

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

#### 《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	30	81.1
建設業(土木)	20	17	85.0
建設業(職別・設備)	34	29	85.3
卸売業	34	26	76.5
小売業	72	55	76.4
飲食業	21	16	76.2
サービス業	70	53	75.7
合計	288	226	78.5

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(20年3月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価が悪化し、販売(受注)・客単価もやや悪化となった。  
売上高がやや悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈製造業〉

製造原価が悪化したものの、販売(受注)単価は改善となった。  
売上高が大きく悪化したものの、採算(営業利益)は僅かに改善となった。

〈建設業(土木)〉

仕入単価が悪化し、受注単価も大きく悪化となった。  
売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価が悪化したものの、受注単価はやや改善となった。  
売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

〈卸売業〉

仕入単価が悪化したものの、売上単価は大きく改善となった。  
売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も改善となった。

〈小売業〉

仕入単価が悪化し、客単価も悪化となった。  
売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も改善となった。

〈飲食業〉

仕入単価が大きく悪化したものの、客単価は改善となった。  
売上高が改善したものの、採算(営業利益)は悪化となった。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)が悪化し、客単価も大きく悪化となった。  
売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比  
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (20年6月期)	前回調査 (20年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 51.8	▲ 39.7	▲ 12.1
	▲ 52.5	▲ 44.2	▲ 8.3
製造業	▲ 73.3	▲ 58.6	▲ 14.7
	▲ 66.7	▲ 72.4	5.7
建設業 (土木)	▲ 50.0	▲ 36.4	▲ 13.6
	▲ 53.3	▲ 36.4	▲ 16.9
建設業 (職別・設備)	▲ 48.3	▲ 35.7	▲ 12.6
	▲ 48.3	▲ 32.1	▲ 16.2
卸売業	▲ 26.9	▲ 31.8	4.9
	▲ 34.6	▲ 22.7	▲ 11.9
小売業	▲ 50.0	▲ 56.5	6.5
	▲ 50.0	▲ 56.5	6.5
飲食業	▲ 66.7	▲ 63.6	▲ 3.1
	▲ 60.0	▲ 81.8	21.8
サービス業	▲ 51.9	▲ 15.4	▲ 36.5
	▲ 55.8	▲ 26.9	▲ 28.9

## 来期(20年7～9月期)の業況見通し

全業種における来期(20年7～9月期)の業況見通しのD I値は▲34.4となり、20年3月期の前回調査の業況D I値▲28.9と比較して5.5ポイント悪化し、全体としてやや厳しい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しD I値が改善する業況見通しの業種は、建設業(土木)、製造業の2業種で、特に建設業(土木)においてはプラス30.6ポイントという明るい業況見通しとなった。

一方、業況見通しが悪化の業種は、卸売業、建設業(職別・設備)、小売業、サービス業、飲食業の5業種にのぼり、特に、卸売業においてはマイナス20.9ポイントとなり、厳しい業況見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (20年6月)	前回調査 (20年3月)	今回調査との比較
全業種	▲34.4	▲28.9	▲5.5
製造業	▲50.0	▲52.0	2.0
建設業 (土木)	▲25.0	▲55.6	30.6
建設業 (職別・設備)	▲30.4	▲20.8	▲9.6
卸売業	▲40.9	▲20.0	▲20.9
小売業	▲38.8	▲30.8	▲8.0
飲食業	▲53.3	▲50.0	▲3.3
サービス業	▲16.7	▲13.0	▲3.7